

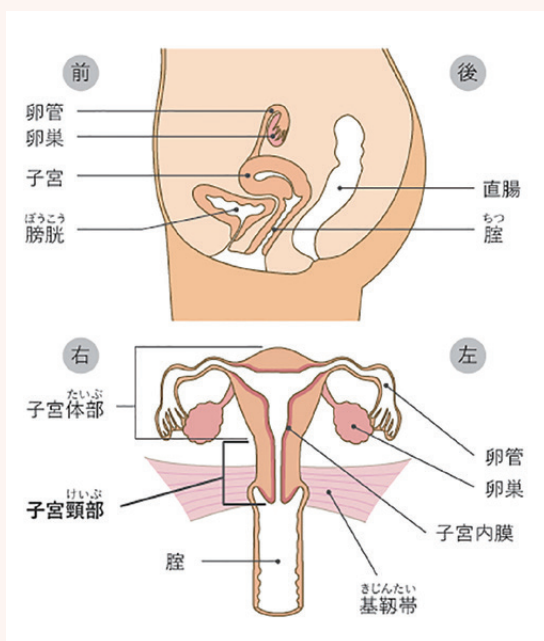
～子宮頸がんの予防にはHPVワクチン接種と 定期的な検診が大切です～

知っておきたい「子宮頸がん」のこと

女性特有のがんの一つである子宮頸がん。若い世代の女性に発症することが多いのが特徴です。女性の人生に大きな影響をおよぼすこともある子宮頸がんですが、子宮頸がんは悪性腫瘍の中でも自分で予防できる数少ないがんのひとつです。今と未来を大切にしたい選択をするために、ぜひ子宮頸がんについて知識を身につけましょう。

Q：「子宮頸がん」とはどんな病気ですか

A： 子宮頸がんとは、子宮の頸部（出口に近い部分）にできる悪性腫瘍のことを言います。大多数の子宮頸がんは性的接触によって子宮頸部にヒトパピローマウイルス（HPV）が感染することを引き金として発症します。



【子宮の構造と周囲の臓器】

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

Q：「子宮頸がん」の症状にはどのようなものがありますか

A： 子宮頸がんはAYA世代といわれる15～39歳以降の女性で発症します。いわゆる成人病といわれるがんに比べて若いうちから発症することから、マザーキラーと呼ばれることもあります。もちろん、高齢女性にも発症しますので、女性であれば皆さんに発症の可能性がありますので注意が必要です。

Q：「子宮頸がん」の症状にはどのようなものがありますか

A：子宮頸がんは初期では症状がありません。徐々に進行するにつれて、性交後出血をきたすようになり、放置すると不正出血や下腹痛や腰痛などが生じる場合もあります。

Q：「子宮頸がん」の治療方法について教えてください

A：子宮がん検診などにより初期のうちに発見されれば、子宮全体を摘出せずに（妊娠できる可能性を残しながら）病変のみを切除して治癒することも可能ですが、一般的には子宮全摘や放射線治療により治療を行うことが多いです。進行している場合は抗がん剤などを用いることもあります。治癒を目指す治療は初期のうちに行うことが原則です。

Q：「子宮頸がん」の予防法はありますか

A：先に述べたように、子宮頸がんの発症にはHPVの感染が原因であることが多いので、HPV感染を予防するワクチン接種することで、予防できるようになりました。ただワクチン接種のみで100%予防することはできませんので、子宮頸がんの検診も同時に行うことで90%以上を予防することができるようになります。

全世界の子宮頸がんの根絶が目指せる時代となってきました。ワクチンを接種していない世代の女性の場合は、1、2年ごとの子宮頸がん検診を受診することで早期発見でき、治癒も期待できます。詳しくお知りになりたい方は産婦人科医に相談してください。

Q：HPVワクチンの安全性は？

A：HPVワクチンの安全性については、過去にその副反応としてニュース画像が流れて不安視されたこともありました。我が国以外での同様の報告がほとんどないこと、またその後我が国でも詳細な検討が行われて、安全性が確認されたため、政府によるHPVワクチン接種勧奨が再開されました。接種による副反応の相談体制も整備されましたので、対象者は積極的に接種することを強くお勧めいたします。

Q：ワクチンには種類があるようですが、どれを接種すればよいのでしょうか？

A：公費による接種でも最新型の9価ワクチンを使えるようになっておりますので、できるだけ9価ワクチンを接種しましょう。



沖先生から
ひとこと

周産期センター
センター長

おき
沖

あきのり
明典

子宮頸がんはワクチン接種を先行している国々で激減していることが証明されています。がん検診を併用することで過去の病気となる日も来ることが予想されています。みなさん、子宮頸がんが過去の病気となるように積極的に予防接種とがん検診を行いましょう。